

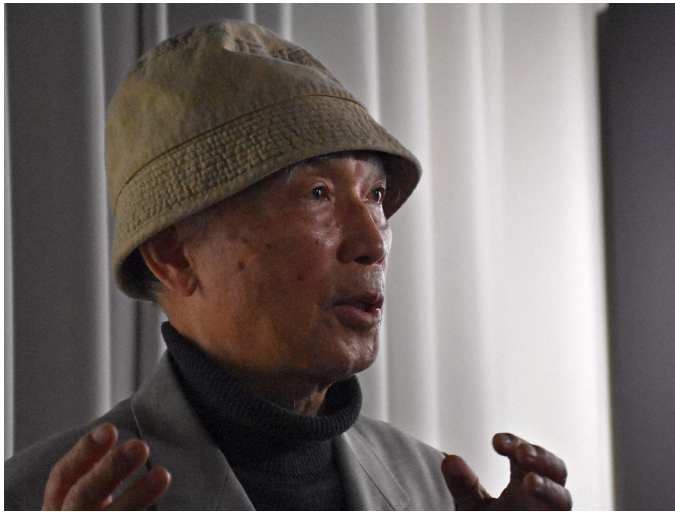


5月31日号 (314号)

編集／販売総本部ブランドプロモーショングループ

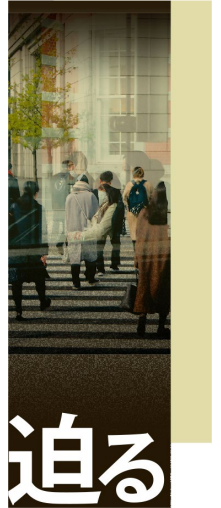
復員兵の戦争トラウマ — 父の記憶 — 黒井秋夫さんの取り組み

5月31日(日) = 1、3面



在でした。第二次世界大戦で出征した父は復員後、定職にもつかず、周囲との関わりを拒み続けました。長らく父を「ダメな大人」だと思っていた黒井さんですが、ベトナム帰還兵の戦争トラウマを描いたドキュメンタリーを見て、父も被害者の1人ではないかと思ひ至ります。

そして旧日本兵の戦争トラウマの実態を明らかにしようとして立ち上がり、国を動かすことになりまます。歴史に埋もれた戦争被害を掘り起こす黒井さんの歩みに迫ります。



迫る

東京都武蔵
村山市の黒井
秋夫さん(77)
Ⅱ写真Ⅱにと
つて、亡き父
は恥ずべき存

不登校経て「人が怖い」 発達障害女性、仕事の輪郭つかむまで 6月4日(木) = 暮らしナビ面

暮らしナビ

琴音さん(26) Ⅱ仮名Ⅱは2020年、コミュニケーションの難しさなどがある「自閉スペクトラム症」(ASD)と、衝動的な行動などが特徴の「注意欠如・多動症」(ADHD)と診断されました。

これまで障害のある人向けの「就労継続支援B型事業所」で働いたり、バイトをしたりしましたが、どこも長くは続きませんでした。琴音さんは「そんな自分が嫌だった」と話します。それでも発達障害のある

「この記事がすごい！毎日新聞今週のこだわり3本」は今号でいったん発行を休止いたします。長い間ご愛読ありがとうございました。



人の当事者グループに参加したことや、自分の向き不向きが分かってきたことで、少しずつ仕事に前向きな気持ちを持てるようになったそうです。

こども家庭庁発足3年

6月3日(水) = オピニオン面

論点

こども家庭庁は、どうあるべきなのか。子どもの権利保障などに取り組む「認定NPO法人3Keys(スリーキー）」の奥山誉恵代表(右)と、家族のあり方を長年研究している山田昌弘(左)に聞き

「こども家庭庁が掲げ、各省市にまたがっていた子ども政策を一元化しました。将来を担う子どもの成長を支える役割が期待されていますが、SNSでは無用論や解体論が渦巻いています。」

こども家庭庁が発足して3年が過ぎました。



こども家庭庁が発足して3年が過ぎました。

「こども家庭」を掲げ、各省市にまたがっていた子ども政策を一元化しました。将来を担う子どもの成長を支える役割が期待されていますが、SNSでは無用論や解体論が渦巻いています。